

曾根沼におけるオオクチバスの抑制状況と在来魚介類の生息状況

田口貴史・臼杵崇広・酒井明久

1. 目的

オオクチバス、ブルーギル（以下、それぞれバス、ギル）駆除のモデル水域として選定された曾根沼（滋賀県、彦根市）では、平成15年から外来魚駆除を実施しており、近年ではバスの減少と在来魚介類の増加が顕著である。平成29年度時点でも同様の状況であるか、確認する目的で調査を実施した。

2. 方法

平成29年度の曾根沼では、表1の調査（駆除）を実施した。バスの抑制（生息）状況については、これまで曾根沼で実施されてきた駆除手法のうち、長期的に捕獲効率（CPUE）を把握している春の電気ショッカーボートでの駆除（以下、EFB春）とタモ網での仔稚魚すくいの結果から評価した。在来魚介類の生息状況については、小型定置網と小型曳網でのCPUEと捕獲された種数により評価した。

3. 結果

EFB春ではバスが148尾駆除され、うち14尾が親魚（標準体長190mm以上）であった。バス親魚のCPUE（時間あたり捕獲尾数）は0.55尾で、平成27年とほぼ同水準であった（図1）。仔稚魚すくいでは3,382尾が駆除され、そのCPUE（沼1周あたり捕獲尾数）は376尾で親魚同様に過去に比べて低水準であった。これらの結果から、曾根沼では引き続きバスを低密度で抑制できていると考えられる。

小型定置網、小型曳網での在来魚介類のCPUE（1日または1曳網あたりの捕獲尾数）と確認種数は、ともに前年に比べて低下した（両調査とも同様の傾向のため、前者のみ示す：図2）。このCPUEの低下は、バス、ギルの影響により在来魚介類が減少したことによるものか、環境変化等により生じる在来魚介

類の生息量や分布の変化によるものなのか不明であることから、今後も調査や外来魚駆除を継続し、在来魚介類が減少傾向にないか、バスの生息状況と合わせて注視することが重要と考えられる。

表1 平成29年度に曾根沼で実施した調査（駆除）

調査（駆除）内容	調査（駆除）時期	調査（駆除）日数	
電気ショッカーボート	3月下旬から4月下旬	7日	
仔稚魚すくい	5月中旬から7月上旬	9日	
小型三枚網	4月中旬から6月下旬	10日	
小型曳網	6月中旬から8月上旬	4日	
在来魚介類	小型曳網	5月初旬から6月下旬	8日
モニタリング手法	小型定置網	4月から9月	毎月2日

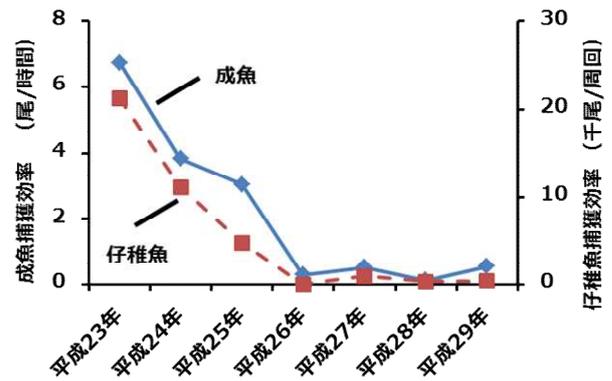


図1 バス成魚（EFB春）と仔稚魚（仔稚魚すくい）の捕獲効率の経年変化

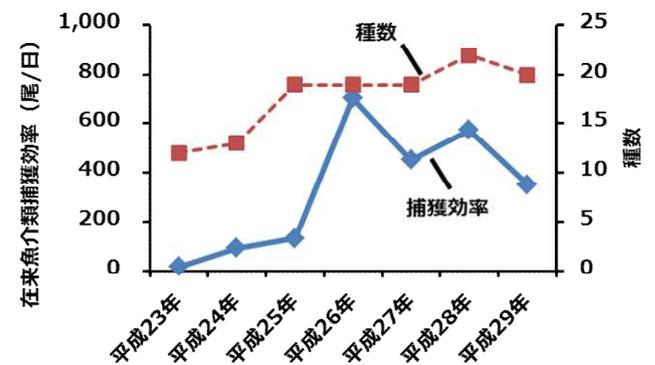


図2 小型定置網での在来魚介類の捕獲効率と捕獲種数の経年変化（4～9月）

*本報告は水産庁からの委託事業「河川流域等外来魚抑制管理技術開発事業」の成果の一部である。